

クリニカルサイコオンコロジーの理論と実践

授業科目名	クリニカルサイコオンコロジーの理論と実践
単位数	2単位
英語表記	Practice and Research in Clinical Psycho-Oncology
授業コード	360410
受講人数	40名
担当教員	平井 啓、足立 浩祥、松浦 成昭、谷向 仁、福吉 潤 他
対象	全研究科大学院生、3年次以上の学部生、社会人（15名まで）
開講時期等	10月11・12・13日（1～5限）（予定）
開講場所	吹田キャンパス：医学部保健学科第4講義室
キーワード	サイコオンコロジー がん医療 緩和ケア 医療心理学 精神医学 チーム 小児がん 家族
授業の目的	がん患者の「こころの問題」に対する包括的アプローチであるサイコオンコロジーをテーマとして、医療分野や関連領域で「こころの問題」を扱うエキスパートとして必要な1) 精神医学・心理学・病理学・行動科学・マーケティングサイエンスなどの学問体系に基づく知識と方法、2) 異なる専門性を持った人たちの「チーム」で仕事を進めていく上で必要なウィルとスキルを学びます。
講義内容	<p>がん医療において「こころの問題」を取り扱うサイコオンコロジー（Psycho-Oncology）をテーマに、体系的な学問体系＝精神医学・心理学・病理学・行動科学・マーケティングサイエンスに基づく方法論を通して、医療現場で「こころの問題」を取り扱うエキスパートに必要なウィルやスキルを学びます。</p> <p>3日間の集中講義は、それぞれテーマについて講義とグループワークを中心とする体験型の授業形式で展開されます。</p> <p>【1日目午前】イントロダクション・サイコオンコロジー研究法（平井 啓）：サイコオンコロジーとがん患者のこころの問題の総論について講義をします。またサイコオンコロジー分野を中心に、実際に医療分野で心理学やQOLについての研究を行う際の方法論や、研究によって得られた実践知をケーススタディーから学びます。</p> <p>【1日目午後】がん医療における心理学的問題（基礎）（平井 啓）：うつ、不安などがん患者の心理的問題の基礎的な知識について学びます。</p> <p>がんの病理（松浦 成昭）：がん治療の全体像について病理や治療の観点から初学者にも分かりやすい講義を展開します。</p> <p>【2日目午前】がん患者の家族の心理的問題（塩崎 麻里子）：がん患者の家族に関するさまざまなトピックを紹介し、ディスカッションをしていきます。</p> <p>【2日目午後】がん医療における行動科学とヘルスコミュニケーション（福吉 潤・平井 啓）：がん医療の領域で展開される最新のヘルスコミュニケーションの理論と実践について、がん検診の普及啓発プロジェクトについてケーススタディーを行い、ソーシャルマーケティングの方法を用いた効果的な普及啓発の方法を学びます。</p> <p>【3日目午前】小児がん医療とサイコオンコロジー（多田 羅 竜平）：小児がん患者の心理的問題、倫理的問題などディスカッションを通して学びます。</p> <p>【3日目午後】がん医療における精神医学的問題（発展）（谷向 仁・足立 浩祥）：認知機能や睡眠の問題などの最新の精神医学的トピックについて学びます。</p> <p>サイコオンコロジーにおける包括的アセスメント（谷向 仁・足立 浩祥・平井 啓）：クリニカルサイコオンコロジーの基礎となる精神医学的問題のアセスメントと治療・ケアの実践方法、コンサルテーションのためのプランニングについて、グループワークで症例検討を行いながら学びます。</p>
教科書	「医療心理学の新展開」北大路書房 「精神腫瘍学クイックリファレンス」創造出版
参考書	講義中に適宜資料を配付する
成績評価	出席とレポートによる

医療における『こころの問題』のエキスパートを目指して

この授業の中では、医師、看護師、心理士などの現場の実践家から様々な研究科の大学院生や学部生まで、あなたが持つ専門性とは全く違う背景を持つ人たちとグループワークやディスカッション、すなわち「チーム」による協働作業を行います。「チームによる協働」はサイコオンコロジーの基本的なアプローチであり、1人のがん患者の「こころの問題」を多職種が多方面から明らかにしていくという方法です（協働的科学家実践家モデルと呼んでいます）。専門性の異なる人たちに自分のアセスメントした内容をプレゼンテーションし、チームでのコンセンサスを形成していきます。このプロセスを体験することで、がん医療だけでなく他の医療分野や福祉、さらには社会全般で「チーム」を組んで仕事をしていく「エキスパート」に必要な知識とスキルを学ぶことができます。

今回は、サイコオンコロジーの扱うテーマを題材とし、さらに臨床的なテーマだけではなく、研究の方法論についても「チーム」で学ぶことにより、実践家・臨床家と研究者・科学者がどのように「チーム」として共同していくかについてもその可能性について考えていきたいとおもいます。今年度は、小児がんやがん患者の家族といった新しいトピックについてもディスカッションを行います。